

特に今回質問いたしました内容は、全てこの長井市を支える子供たち、若い世代がどう育つかという、そういう観点で質問させていただきました。そのために長井の子供たちがどうなっているのか、そして長井のことを思うような若者がどう育つか、私、出身が長井高校で、進学が多いわけなんです、そういうものもおります。そういうものも仮に長井市内に戻ってこなくても、長井のことを思いながら、長井のために自分のやれることをやろうと思うような人たちを育てることだろうと思います。

そして、この職業というものについては、自分のやりたいこと、あるいはこれからこういうことをしたい。それも大事なんですけれども、もう一つ、長井のために何かしたいというふうに思う子供たちを育てることが必要なのではないかと。そういう思いから、キャリア教育等について質問させていただきました。そのことについては、長井市として本当に真剣に取り組まれているということですので、私もこれから地元に戻りながら、あるいは企業の方と話をしながら、行政と手をとり、長井のものづくりの人材に取り組んでまいりたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。以上で質問を終わります。

○平 進介議長 ここで暫時休憩をいたします。

再開は、午後3時20分といたします。

午後 2時59分 休憩

午後 3時20分 再開

○平 進介議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

渡部正之議員の質問

○平 進介議長 順位5番、議席番号3番、渡部正之議員。

(3番渡部正之議員登壇)

○3番 渡部正之議員 皆様、お疲れさまでございます。本日最後の一般質問をさせていただきます。私は、このたびの市議会議員選挙におきまして初当選させていただきました渡部正之でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

この場をおかりしまして、市民の皆様、当選のお礼と感謝を申し上げます。初心を忘れず、長井市の発展のため、全力で取り組んでまいりますので、市民の皆様、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。また、先輩議員の皆様、市長を初め当局の皆様、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

住みたくなるまち、住んでいてよかったと感じるまちの実現のため、長井の魅力を発信し、交流人口増加へ向けたまちづくりや、子育て世代の代表として、子供が安心・安全に暮らせるまちづくり、長井に住んでいる全ての人々が生きがいを感じるまちにしていくため、「若さと行動力で実りあるあすへ」をスローガンに行動してまいります。

それでは、通告に従いまして、初めての一般質問をさせていただきます。私からは、3項目で9点質問いたします。一括質問にて質問させていただきますので、ご答弁のほどよろしくお願ひいたします。

初めに、大項目1、長井市における児童生徒の交通安全対策についてお伺ひいたします。

ニュースや新聞等でも大きく取り上げられておりました滋賀県大津市の県道交差点で車同士が衝突し、散歩中に信号待ちをしていた保育園の園児16名が死傷した事故、そのほかにも無防

備な歩行者が車に巻き込まれる痛ましい事故や、川崎市の路上でスクールバスを待っていた小学生や保護者が次々と襲われた事件などが全国で多発しております。警察庁の調べによると、通学路などで13歳未満の子供が事件に巻き込まれたケースは、昨年全国で573件発生しており、児童生徒の登下校をいかに安全に守れるかということが課題だと思われま

す。このように多発している事件、事故を受けて、長井市においても子供たちを守る早急な安全対策の再確認が必要かと考えます。

そこで、地域ボランティアや協力者の確保が課題だと思われま

すが、これまでの取り組み状況やこれからの対策について質問いたします。1点目は、地域ボランティアや協力者によって子供たちが安心安全に登下校しておりますが、ボランティアや協力者の現状と人材の確保をどのように進めるのか、市長にお伺いいたします。

児童生徒が交通事故等の被害に遭わないためには、通学路の見守り活動がとても重要であります。これまで長井市内の子供たちが大きな事件、事故に遭っていないことは、ご協力いただいている各団体や地域ボランティアのおかげであることに感謝を申し上げます。しかしながら、最近ではボランティアや協力者の人数が減ってきているという現状のようです。

そこで、本市が捉えている地域ボランティアや協力者の現状と、人員確保におけるこれまでの取り組みを教えてくださいたいと思います。

2点目は、緊急時におけるボランティアや協力者への連絡体制と対応策について市長にお伺いいたします。

児童生徒の登下校時、事件事故等が発生し、緊急な連絡を要する事態となった場合、地域ボランティアや協力者への緊急時連絡体制、協力要請等は現状どのようになっているのか、教えてください。

3点目は、高齢者の運転による事故が全国的

に多発しておりますが、長井市における取り組みについて、市長にお伺いいたします。

池袋での高齢者の暴走による悲惨な事故等、高齢者の運転による事故が連日のように取り上げられております。現在、人生100年時代と言われるようになり、高齢者が多くなることから、移動に不自由を感じる人が多くなるように思います。公共交通機関が十分とは言えない本市において、最もフレキシブルな移動手段として利用されているのが車であり、移動手段として車はなくてはならない交通手段となっております。多発する事故等を受け、免許の自主返納を考えていられる方もおられると思います。しかしながら、免許返納による移動手段の喪失や、移動手段の不足が懸念され、なかなか自主返納に踏み切れないのも現実ではないでしょうか。循環型バスやタクシー料金の一部補助の対応はあるものの、今後はさらにきめ細やかなサービスの充実等を考える必要があると思います。

また、長井市では、通学路交通安全プログラムを策定し、関係機関と合同で、計画、実施、評価、改善という流れで点検を行っていると思いますが、高齢者の運転による事故を受けて、このような視点からも安全対策に力を入れて取り組む必要があると考えます。これからの取り組みをどのようにしていくのか教えてください。

次に、大項目2、長井市が設置、管理しているAEDについてお伺いいたします。

厚生労働省が公表しているAEDの適正配置に関するガイドラインによると、平成16年に非医療従事者によるAEDの使用が認可されて以来、学校、官公庁などの設置が進み、AEDにより数多くの人々が救命され、社会復帰しているが、一般人により目撃された突然の心停止のうち、AEDを用いて電気ショックが実施されたケースは、全ての心停止の中でまだまだ少なく、居合わせた人によりAEDが適切に活用されるように、計画、管理することが大切である

と言われております。

また、AED普及の実態と効果を検証した調査では、公共スペースに設置されたAEDによる電気ショックは、心肺停止から平均3分以内に行われており、40%近い社会復帰率を示し、あわせて電気ショックが1分おくと社会復帰率が9%減少することが示されております。

そこで、不特定多数の人が出入りする施設等で緊急時AEDを使用する際、どの場所に設置してあるのかを明確にしておく必要があると考えます。同時に、使用方法の周知や、定期的な訓練も必要があると思われることから、質問いたします。

1点目は、緊急時におけるAED設置場所への誘導表示や案内板の設置状況について、市長にお伺いいたします。

特に、休日や夜間等に施設を利用する場合、AED設置場所が明確にわからなければ、緊急時対応におくれが生じると考えます。AED設置場所における現状を教えてください。

2点目は、AED使用方法の周知や、訓練も含めた体育施設利用団体等への周知や管理について、市長にお伺いいたします。

体育施設利用団体の説明会等において、AED設置箇所の説明や、講習を受講している団体であるのかの確認は行っているのか、教えてください。

3点目は、公的施設以外の民間企業等への設置状況と、今後の協力要請が必要かと思いますが、市長のお考えをお伺いいたします。

いつ、どこで、何が起こるかわからないことから、市内企業等への協力要請することにより、連携して利活用できるような体制を構築できればと考えますが、市長のお考えをお聞かせください。

次に、大項目3、長井市におけるこれからの観光事業の取り組みについてお伺いいたします。

水と緑と花のまち長井は、飯豊山地から北上

する白川と、朝日山地から東進する野川が合流し、最上川へ流れ、最上川舟運の港町として栄えたまちであります。市街地には珍しくカヤぶき屋根の民家や商家が複数残され、江戸期に建築された蔵もまた相当数残されており、最上川舟運で栄えた面影が今も残る歴史あるまちであり、平成30年2月には文化財保護法に基づく重要文化的景観、最上川上流域における長井の町場景観として選定されております。また、広大な田園風景と、ブナや杉などの木々で季節の色に染まる葉山。そして、桜、ツツジ、アヤメ、ハギなどの花々により彩る町並み。自然と歴史が息づく魅力あふれる長井が私は大好きであり、これからの観光事業にとっても可能性を感じております。

また、このたび、南陽市、白鷹町、飯豊町とともに地域連携DMOとしてやまがたアルカディア観光局が設立され、4月1日から営業しており、今年度の黒獅子まつりは30周年企画で2日間開催であったこともあり、10万人を超える来客であったと聞いて、今後の事業展開にとっても期待しております。

さらに、来年にはオリンピック・パラリンピックの開催を控え、インバウンド観光振興の取り組みなども必要であると考えます。

観光推進についてお伺いいたします。

1点目は、観光事業の現在までの取り組みと、今後の事業展開について、市長にお伺いいたします。

観光資源活用の最近の事業成果と、やまがたアルカディア観光局設立による具体的なメリット、また、今後のインバウンド観光振興の取り組みを教えてください。

2点目は、観光ボランティアガイドの現状と課題について、商工観光課長にお伺いいたします。

長井を観光地として広くPRしていく上で、とても重要でありがたい事業であると思ってお

ります。そこで、現在把握されているボランティアガイドの人数と今後の方向性、また課題等を教えてください。

3点目として、やまがたアルカディア観光局では、行政間の調整、整合等の機会を持たれていると思いますが、具体的な体制と内容について、市長にお伺いいたします。

2市2町での地域連携DMOということから、四季を通じた多様な観光事業の展開が期待されます。そこで、今後の事業展開をスムーズかつ活発に行うためにも、行政間の調整、整合等の機会の充実を図る必要があると思います。設立からこれまでの会議数、出席者、会議内容、今後取り組む上での課題等、お聞かせください。

壇上からは以上になります。ご清聴ありがとうございました。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 渡部正之議員から、大きく3項目につきましてご提言いただきました。私のほうからは、全部で8点ほどご提言やら、あるいはご質問でございますので、順次お答え申し上げます。

まず、最初に、長井市における児童生徒の交通安全対策についてということでございますが、渡部議員、非常に心配されているように、本当に全国で、この間のいろんな事件が、事故が非常に目立っておりますが、例年500件、600件あるんだと。長井市でも、大事故にはつながっていないんですが、やはり通学中の、特に中学生とか、接触事故等々は例年五、六件ぐらいでしょうかね、ございまして、これらについて、本当に人ごとでない。ちょっと一歩間違えれば大事故につながることでございますので、私どもも他人ごとではなく、いろいろ検討しなきゃいけないというふうに思います。

まず、最初の、地域ボランティアや協力者によって子供たちが安心安全に登下校しているが、ボランティアや協力者の現状と人材の確保をど

のように進めるのかというご質問でございます。

渡部議員からもございましたように、現在、児童生徒の安全な登下校に関連いたしまして、多くの市民の皆様、ボランティアの皆様からご協力をいただいております。各小学校単位の団体で児童生徒の見守り活動に登録いただいているボランティアの方々は、長井小学校の慈愛っこまもり隊約30名、それから致芳小学校はご存じだと思うんですが、致芳っこ見守り隊約20名、そして平野小学校の平小見守り隊が20名、豊田小学校は、特に名称はないということですが、約20名いらっしゃいます。そして、西根小学校と伊佐沢小学校は自主的な見守りボランティアとしてそれぞれ6名ずつと、市内6つの小学校合わせて100名を超える方々に学校を通じてご登録いただいております。

なお、長井南中学校や北中学校は、あいさつ運動を兼ねまして、保護者全員が期間を決めて生徒の安全確保や見守り活動に取り組んでおります。

各学校では、それぞれの学校に配置されている地域学校協働活動推進員を中心に、学校支援ボランティアを毎年募集しておりまして、その人員の中で安全ボランティアを結成し、活動を進めているところでございます。

毎年PTAでも、いわゆる通学路点検ということになさっていると思うんですが、やはりこういったボランティア活動と同時に、重要なのは、毎年、年4回県民運動として長井署管内連携しながら進めております交通安全対策ですね。長井市の交通安全推進協議会というのがございますが、この中でも我々それぞれの団体で力を合わせていこうということなんですが、やっぱりそういうボランティアの方々、子供たちもちろん意識を高く、油断しないで、いつ来られてもあり得るんだということを認識すると同時に、やはり家庭と地域と職場、それぞれに交通安全意識を持ってもらう。やっぱり家庭では、

いってらっしゃい、気をつけてねと、おかえりなさいと、大丈夫だったかということで、とにかく交通安全気をつけろよと家庭で言う。これは保護者はもちろんですが、交通安全母の会ですね。母の会というのが一生懸命これに取り組んでいただいています。また、地域では当然安協さんが本当に献身的に取り組んでいただいておりますし、また職場では安管連初め、企業ぐるみ、会社ぐるみで声をかけ合って交通安全等やっているわけですが、ただ、この地域外からも車はいらっしゃるわけで、その辺などがやっぱり課題だなと思っています。

次に、2点目でございますが、緊急時におけるボランティアや協力者への連絡体制と対応策についてということですが、緊急時におけるボランティアや協力者への連絡体制でございますが、さきに述べましたとおり、それぞれの学校でボランティアの人数に違いがありますことと、校区の広さや団体の体制等が異なりますので、学校ごと、電話による連絡であったり、学校の緊急メール配信システムを使ったりなどの方法で、万が一の緊急時の対応について準備しております。

なお、不審者情報が入った場合には、警察署との連携や学校職員が引率、パトロールして対応するなど、地域ボランティアの方々と連動して児童生徒の安全が確保されるよう、それぞれの学校で体制を整えているところでございます。

最初の質問と、この2点目の件につきましては、主管課が学校教育課、教育委員会になります。あと、ただいまの緊急時なんですけれども、今6地区全地区でコミュニティセンターがスタートしたわけですが、その中でこの4月1日から屋外の拡声装置ということで市内60カ所に、通学、あるいは外でいろんなお仕事をしていたり、農作業をなさっている方、散歩の方なんかも緊急時に知らずことができるように、情報をお知らせするために、おらんだラジオを通じ

ての情報網ってあるわけですね。外で、拡声機でわっと大音響で。これがコミセンのほうからは、それぞれの地区ごとにコミセンのほうからいろんな情報を提供できないかと。例えばある地区で熊が出たから気をつけてくださいと。それは地域だけでいいわけですよ。あるいは学校の行事で、きょうは運動会ですとか、きょうは子供たちが早く下校しますから地域の皆さん見守ってくださいとか、そういったことをできないかという要望がございまして、それには少しお金をかけて改造しなきゃいけないということで、それらについても今後検討しながら、いざというときにそういったことでも使えるのではないかなと思っています。

続きまして、3点目の、1項目めの最後ですが、高齢者の運転による事故が全国的に多発しているが、長井市の取り組みはということでございますけれども、高齢ドライバーによる悲惨な交通事故が後を絶たないということで、先ほど渡部議員からもご紹介ありました。長井市でも昨年4月に平山で74歳の男性が運転する軽自動車とダンプカーが衝突いたしまして、男性がお亡くなりになりました。9月には百間道路において、68歳女性の車が66歳女性の自転車と衝突して、自転車の女性が亡くなっております。11月には同じ百間道路で85歳男性の運転する車が91歳男性の自転車と衝突しまして、自転車の男性が亡くなっております。いずれの事故も前方不注意、前をよく見ていなかったというふうに言われております。事故を受けまして、看板の設置や道路外側線、それから交差点注意の文字をペイントして注意を促すことや、交通安全を呼びかけるキャンペーン、警察による取り締まりの強化など、あらゆる策に取り組んでおります。今年度から死亡事故のあった百間道路を初め、市内幹線道路や目抜き通りに、地区の協力をいただきながら、これは順次ではございますが、LEDの防犯灯を増設して明るくしよう

と。よりよい道路環境を整えていくことも重要だと思っております。

高齢者の免許自主返納につきましては、昨年度までは市営バスの回数券を配布しておりましたが、この4月からは、市営バスの回数券に加えてフラワー長井線の回数券、上限10冊分の半額助成、これは5,000円ということですが、それから運転経歴証明書1,100円の無料交付を実施しております。この無料交付、運転経歴証明書を出しますと、タクシーが安くなるということでございます。また、市の交通安全専門指導員により、市内のミニデイサービス、おいたま荘、シルバー人材センターなどを会場に交通安全教室を実施しているほか、交通安全母の会による高齢者向けの啓発活動や世帯訪問などを行い、高齢者が交通事故の被害者にも加害者にもならないよう、夜間外出時は明るい色の服や夜光反射板の着用、運転に自信の持てない方への免許自主返納の呼びかけを行っています。さらに、長井地区交通安全協会及び安協各支部がそれぞれ高齢者を対象とした交通安全活動を行っており、交通事故のないまちづくりのためにも、関係する団体と連携し、今後も引き続き効果的な運動を進めたいと考えております。

これも、なお、全国的に高齢者の事故がふえている。しかもアクセルとブレーキを踏み間違えているということで、ブレーキの補助装置みたいなものの支援の動きが徐々に出てまいりますので、私どももそういった状況を見ながら検討しなきゃいけないというふうに思いますし、あとは、さらなる公共交通機関の支援の拡充を今後検討してまいりたいというふうに思いますので、よろしく今後ともご助言等々賜りますようお願いいたします。

以上、こちらは市民課が担当になります。

続きまして、大きく2点目ですが、長井市が設置、管理しているAEDについてでございますが、議員からは、不特定多数の人が出入りす

る施設等で、緊急時AEDを使用する際、どの場所に設置してあるかを明確にして、同時に使用方法の周知や定期的な訓練の必要もあると思うが、いかがかという提言でございます。

まず、1点目の、緊急時におけるAED設置場所の誘導表示、案内板の設置についてお答えを申し上げます。

AEDの設置場所や配置に関する具体的な指標でありますAEDの適正配置に関するガイドラインが、平成25年に一般財団法人日本救急医療財団から公表されておまして、平成30年に改定されております。それによりますと、施設内での配置方法として、AEDの配置場所が容易に把握できるように、施設の見やすい場所に配置し、位置を示す掲示、あるいは位置案内板などを適切に掲示することが求められております。

現在、長井市で設置しているAEDについては、市役所や各コミュニティセンターなどの公共施設に31台ございます。設置管理及び表示に関しては、各施設で対応しているところですが、ほとんどは入り口付近か事務所等、わかりやすい場所に設置しております。AED設置の表示用シールを各施設の入り口に貼付しているほか、設置場所にも表示しているところでございます。ほとんどの施設で入り口付近でのわかりやすい場所に設置していることから、案内板は特に設けていない状況でございます。

次に、使用方法の周知や訓練も含めた体育施設利用団体等への周知や管理についてはということですが、体育施設として武道館、陸上競技場など15施設と、各小中学校体育館等がございます。AEDの設置状況ですが、長井市民西根体育館などの市民体育館は、コミュニティセンターのAEDを使用するなど、共用として使用している施設もありますが、全ての体育施設にAEDが設置されております。

体育施設利用団体説明会等において、AED

設置箇所の説明や講習等を受けている団体があるかどうかの確認についてですが、設置箇所の説明は特に行っていない、また講習を受けている団体の有無についての確認は行っておりません。使用団体へは、事故発生時の緊急時対応マニュアルを配布し、緊急時の対応をお願いしております。

次に、AEDの管理についてですが、施設の管理者がAEDを設置し、AEDの異常の有無について常時確認を行うなど管理を行っております。緊急時には、各利用団体の責任において対応をお願いしていることから、AEDを使用できる指導者が各団体におりますが、消防本部で実施する講習会の開催日時等を周知し、講習会への受講を促すなど、より多くの方が対応できるように努めてまいります。

なお、AEDについては、ご承知のとおり、あけますと自動音声で説明があつて、それに従ってやるということで、それをあける勇気があるかどうかが一番の問題だというふうなことだそうであります。

続きまして、これ最後、この項目の最後でございますが、公的施設以外の民間企業等への設置状況と今後の協力要請が必要と思うがというようなご提言でございます。

AEDの適正配置に関するガイドラインによりますと、心肺停止のリスクが高くなる駅やホテル、デパートなどの大規模集客施設、あるいはスポーツ関連施設、市役所や市民文化会館などの比較的規模の大きな公共施設などに配置が推奨されているということでございました。長井市においても施設ごとに順次配置し、現在のところ、31の公共施設に配置された状況でございます。

また、館町南地区、小坂地区公民館、河井地区公民館において、自主防災組織の活動の一環として整備されている状況でございます。館町南地区は、コンビニのローソン館町南店にAED

Dが配置されているようでございまして、さらに各町内にAEDが配置されれば安心感が高まると思われまので、非常に高価なものでございますので、民間会社における配置状況と協力体制、あるいは自主防災といった面を含めて、地域の中でどうあればいいのか、総合的に検討すべきだろうと捉えております。

以上でございます。こちらについては、健康課と、それから生涯スポーツ課が担当になります。

それでは、最後でございますが、長井市におけるこれからの観光事業の取り組みについてということで、南陽市、白鷹町、飯豊町とともに地域連携DMOとしてやまがたアルカディア観光局が設立され、4月1日から営業しており、黒獅子まつりでは10万人を超える集客であったと聞き、今後の事業展開にとっても期待しております。オリンピック・パラリンピック開催ということでインバウンド観光事業の振興の取り組みなども必要であると考えますが、これからの観光事業について考えを伺うということでございます。

まず、最初に、観光事業の現在までの取り組みと今後の事業展開についてでございます。

渡部議員も経験あると思うんですが、多分子供のころ、あやめ公園は長井の一番の観光地で、35万人、最高たしか38万人だったと思います。昭和の50年代です。それが平成の20年前後、15年あたりからどんどん減りまして、観光のスタイルが変わってきたんですね。10万人を切って、一時6万人とか7万人ということでございました。長井は、そもそも観光産業っていうのはありませんでした。観光というのは、市民が楽しむものという考え方が定着してしまっていて、したがって観光振興計画というのは立てたことないんですね。私たち行政が税金をかけて何で観光を振興するんだと。これは近年、特に人口がどんどん減ってきて、もうあやめ公園の周りも全

部店が閉まってしまいましたけれども、それまで人口減少する前は成り立っていたお店、雑貨屋さんも含めて、あと飲食店も、どんどんどんどん閉店しているわけですね。

このままでは大変だということで、何とか地域の活性化のために観光交流を生かそうということから、平成23年に観光協会などとも相談して、じゃ、観光振興計画というのをつくろうと。なぜかという、やっぱり計画をつくらないと、いろんな事業を起こすことができない。その計画というのは、長井は観光をどういうふうに生かすかというやっぱり理想、やっぱり信念がないとだめだということで、観光振興計画を2年間かけまして平成25年につくりました。観光協会のほうからもご協力いただいて、この観光振興計画つくったんですが、簡単に言えば、観光客を20万人ふやして、10年間でですね。12億円の経済波及効果を目指そうと。これによって地域の活性化、少しでも元気になるようにという計画でございました。

ついては、これを動かすには、エンジンが必要だと。これを実現するには。そのために観光協会と、それまでは市の商工観光課がその役割を担っていたわけなんですけど、観光協会というのは基本的にいろんなイベント、お祭りを運営してもら。あるいは対外的なPRもしてもらいますが、皆さんボランティアでやっています。一部事務局は職員なわけですけども、一方で、市のほうの商工観光課というのは行政ですから、あくまでも観光協会のお手伝いと同時に、観光事業といいますかね。観光資源を管理したり、あるいはブラッシュアップっていいんですが、磨くこと、整備等々に力を入れるということだったんですね。これでは観光振興計画は多分実現できないと。計画がですね。そんなことから、まず最初にやまがた長井観光局という、民間と行政と観光協会を力合わせて、これ旅行会社なんですよ。旅行会社をつくったということな

んです。できれば最初から広域のほうがいいんですが、なかなか広域というのは、議員もこれからいろんなほかの市町村の議会なんかともいろいろいるところで一緒になると思うんですが、なかなかやっぱり、言うはやすし行はかたしで、広域でやるというのは本当大変で、それでまずは長井単独でやろうということで、それを2年かけて、やっと平成28年にやまがた長井観光局というのをつくって、ちょうど道の駅も開設しましたんで、29年から本格的な活動をしたというところでございます。

今後の展開ということでございますが、議員からもございましたように、やはりどのようにして観光客をふやすかということなんで、まずはこのやまがた長井観光局をより広域で取り組むと。それによって地方創生の推進交付金というのを、実質的に9割補助で、税金を余り使わないでできるということから、ことしからその事業に取り組んでおります。実際のところ、取り組みについては、やっぱり長井市の観光局、長井観光局がメインでありますので、ほかのところは、じゃ、とりあえず長井市さんがそう言うんだったら一緒にやってみようかということで取り組んでおりますが、基本的には旅行商品をつくるということですね。独自の旅行商品。あとは、タイアップといいまして、大手の旅行会社と一体となって旅行商品をつくって、それを営業かけるんですよ、ずっと。そしてPRをしたり、あと地方創生推進交付金では、観光資源を整備したりすることもできます。ソフト、ハード含めて。そういったことなどを今行っていますけど、まだ1年目ということで、成果はやっぱり来年以降じゃないと出てこないのかなというふうに思っておりますが、今まで観光というのは待ちだったのが、今度、攻めの観光ということで、外から大勢のお客さんに来ていただいて、お金をやっぱり地元で落としてもらおうというのが長井市の今の観光事業のまず一つの

目標。それによって地域を活性化させるということでございます。

長くなって恐縮ですが、そろそろ終わりにいたしますが、最後に、アルカディア観光局では行政間の調整、整合等の機会を持っていると思うが、具体的な体制と内容についてということなんです。やまがたアルカディア観光局では、組織の運営に当たり、総会、理事会、戦略会議、専門部会、さらに細かいワーキングチームでの作業という体制をとっております。なお、観光局の事務局体制は、事務局長を筆頭に、総務管理係、観光交流係があり、市からの派遣職員が3名で、プロパーの職員が2名、プロパー3名でした。ごめんなさい、1人ふえました。あと、定時補助職員が今のところ2名、そして白鷹町と南陽市から定時補助職員で派遣ということなんです。なかなか応募がなくて、現在のところ8名で行っています。インバウンドの対応といたしまして、1名を、これ外国人を想定していますが、雇用する計画で、今後は、白鷹町と飯豊町1名ずつ来ますから、合計で11名体制で運営していく予定でございます。

このような体制を組んで取り組めますが、この中で一番重要なところは、戦略会議と。戦略会議には、行政も入りますが、会議の中心となるメンバーは民間の方々です。各市町から選出された、地域事情に詳しく、かつ地元でさまざまな観光事業や活動をしている皆さん、この方々をコアメンバーと呼んでおり、正式な戦略会議は総会で承認を得てからということになりますが、既に戦略会議のコアメンバーの会議は組織発足から2週間に1度のペースで開催しており、活発な意見交換が行われております。この戦略会議の代表には、市内のははぎ苑の社長が代表として牽引していただいております。

このほか、観光局に参加する自治体は、観光局の交付金事業予算を計上しなければなりませんので、観光局の組織とは別に、行政担当者会

を開催しております。昨年は半年間で5回ほど開催いたしました。主に予算編成時期が多くなります。なお、行政担当者会議は、各市町の担当課長のほか補佐、担当係長が出席しており、予算の調製のほか、議会への説明資料や今後の進め方について協議しているところでございます。ぜひインバウンドについては、やはりご承知のとおり、インスタグラムなども活用しながら、ぜひこの2市2町の中で受けるような奇跡の一枚をぜひ写真としても広く発信しながら、頑張ってもらいたいというふうに思いますし、観光事業については、やはり皆さんで声を出していただいて、いろんなアイデアをいただきながらやって、ほかの地域に負けられないようにしなきゃいけないと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 私のほうからは、観光ボランティアガイドの人数、今後の方向性、そして課題等についてというふうなご質問の内容にお答え申し上げたいと思います。

渡部議員からは、ボランティアガイドにつきましては、とても重要であり、ありがたい事業だというふうにお褒めいただいております。大変うれしく思います。ただいま市長の答弁にもございましたが、観光地域づくりを進めていくには、観光局という組織のほか、地元の市民が受け皿というふうになりますので、この観光ボランティアガイドというふうなものは、非常に観光地域づくりには大切な組織というふうになっております。

ここで現在の人数等をちょっとお話し申し上げますと、そもそも観光ボランティアガイドはその名称を観光ボランティアガイド、ながい黒獅子の里案内人というふうに命名しております。これは平成12年に募集をかけまして、翌年の13年から活動を開始しております。当初のボランティアガイドの人数ですけども、10名でス

タートしております。それ以降、上下ありましたけども、多いときは30人近くまでふえていた時期がございます。ただ、やはりどうしても現職を引退なさった方が多いというふうなことで、高齢化などもありまして、昨年あたりは名簿上は20名ほどに減ってしまったというふうな状況でございました。この名簿上20名おりますが、やはり実際に、全て案内できる方はその中でも限られておりまして、昨年あたりは大変苦勞した状況になっております。

このような経過もございまして、昨年からはボランティアガイドの会長さんが非常に頑張って声がけをいたしまして、一度ボランティアガイドの会員を退会された方もまた復活していただいたり、新たな会員を募りまして、ことしのこの春は32名まで、名簿上でございますけども、ふやしていただいたというふうな状況でございます。

それから、今後の方向性につきましてですが、先ほど申し上げましたとおり、やはりガイドというのは極めて豊富な知識を持っていないとなかなかお客様に満足していただけないというふうな実情でございます。このため、今年度から、いわゆるオールラウンドに説明できるベテランのエキスパートのガイドさんの方々と、例えばでございますが、あやめ公園だけは案内できるというようなガイドの方、こういう方もいらっしゃるの、会の中で分業することとしました。少ない人数、あるいはまだ研修中のガイドの会員の皆様にも部分的には対応できるように工夫したところでございます。

このように、ボランティアガイドに入会していただいた皆さんには、最初から全て案内できませんので、段階を経て、やがてはエキスパートになれるよう、なれていただく体制を組んだところでございます。

課題といたしましては、やはりガイドの要請につきましては、年々増加してきております。

課題はやはり人数の確保というふうなことになりますけども、先ほども申し上げましたとおり、会員の皆さんは毎年、年をとってまいりますので、高齢になりますとやはり足腰の維持ということも難しくなってきます。会員は多いにこしたことはありません。

このため、今年度からの取り組みといたしましては、実は4年前に長井検定というふうなテキストを作成しております。これをこし復活させるべく取り組みを始めているところでございます。これにつきましては、案内できる人をふやすというふうなこともあります。そういった長井市のさまざまなことに興味を持っていただく市民の方をふやすと。いわゆるボランティアガイドに結びつくようなベースをつくりたいというふうな目的と、ボランティアガイドだけではなくて、例えばタクシーの運転手さんであったり、あるいは市内で接客業を営んでいる方々にも参考になるようなテキストの再編成をこし行いたいなというふうに考えているところでございます。

また、お客様のニーズなんですけども、やはりガイドにつきましては、プロの仕事を求められます。そういった傾向にございますので、今後ますますのレベルアップに努めてまいりますけども、ボランティアでやはり協力できるスタイルにも限度がございます。ですので、出ていただいたガイドさんへは、少しでもボランティアの負担が少なくなるように、そういったために費用弁償できないかなというふうなことで考えております。こういったことをできるようにするために、現在も若干ありますけども、有償での案内というものも取り入れまして、ガイドというこのボランティアの仕事を続けられるように、組織の環境も整備して会員がふえるように努めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

○平 進介議長 3番、渡部正之議員。

○3番 渡部正之議員 丁寧なご説明ありがとうございました。

最初に、児童生徒の安全対策ということで、今後、事件事故等を未然に抑止するという観点から、再質問という形でさせていただきたいと思います。

総合的な安全対策強化ということで、議会等でも、前回の議会等でもお話出ているようですが、防犯カメラというものは大変有効かと思われませんが、市長のお考えをお聞かせいただければと思います。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 答えいたします。防犯カメラにつきましては、各小中学校、あるいは大きくは道の駅とか、長井駅とかいうところにはつけてございます。また、本町商店街とかにつけておいたんですが、今はちょっと本町商店街は休止しております。これはやっぱり交通に限らず、犯罪の防止力としては非常に有効だと思っております。警察署のほうからもぜひいろんなところという声がございまして、大分技術的にも安価でできるようになりましたから、ちょっと地域に相談しないで勝手にというわけにいかない、中国みたいに簡単にはいかないと思っておりますので、その辺なども配慮しながら、やっぱり交通安全を担保するにはそういったことも有効だと思っております。

○平 進介議長 3番、渡部正之議員。

○3番 渡部正之議員 ありがとうございます。ぜひそのようなお考えのもと、進めていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

次に、AEDでありますけれども、緊急時の広域的なカバー、そういったものを目指して、先ほどもありましたけれども、コンビニエンスストアやドラッグストアなどに協力要請的などところを行いまして、広域的なカバー、こういったところをお願いしたいと思っておりますけれども、

こちらのほうについても市長のお考えをお伺いしたいと思います。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 AEDについては、確かにきめ細かく置いてもらう事業所さんがあるといいかと思っております。実際、私も知っている範囲ですと、突然仕事して倒れたと。隣のJAのほうに社員が駆け込んで、そしてAEDでまず緊急措置をして救急車を待っていたということで一命を取りとめたという例なども聞いておりますし、多分そういう例がいっぱいあるんだろうと思っておりますので、この辺は消防署、あるいは危機管理のほうと相談しながら、どういうふうな形で進めていくかですが、議員おっしゃるような、できるだけきめ細かくいろんなところに置いてあれば市民も安心ですので、その辺は今後検討してまいりたいと思っております。

○平 進介議長 3番、渡部正之議員。

○3番 渡部正之議員 ありがとうございます。ぜひ、やっぱり広域カバーという意味でも、そのような考えでお願いしたいと思っております。

それでは、時間の関係上、最後となると思っておりますけれども、長井市の観光事業で先進的な取り組みをなされているということで、本当に期待しているところがございまして。関係団体の協力があり、そしてバックアップがあるといったことも、本当にこれからの長井市の一大産業になっていくのではないかなと期待しております。

一方、四季を通じた観光というものが、やはり長井市、弱いのではないかなと思っております。先ほどそういった有識者の会合など開きながら、今後に向けた動きということがありましたけれども、やはり都会からの観光客や外国人の観光客などが多く来ている東北のお祭り等、例えば大曲の花火大会でありましたり、仙台の七夕、こういったところの日程、スケジュール、ルートのところも含め

観光事業を推進していただければ、コスト的な部分からも、PRコスト的な部分からも有効ではないかと考えますが、市長のお考えを最後にお聞かせください。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 やっぱり長井のこれからの観光の目玉の方向性は、やはり何といても、通年で考えますと、まちなか歩きだと思っています。春は春、冬は冬、夏、秋と。それで当然掘り起こさなきゃいけないし、整備もしなきゃいけないんですが、やっぱり長井で、できれば1泊、2泊していただいて、そして今の観光のスタイルは、団体よりも小グループ、家族とかが多いわけですから、そういう人たちがぜひのんびりと長井でいろんな楽しみをしてみたいと。こういう、例えば長井紬を織ってみたいとか、あるいは焼き物をやってみたいとか、あとおいしいまちなかで食事を食べたいとか、先ほど紹介もあったように、舟運のいわゆる栄えた重要文化的景観ですね。そういったものを生かすということが第1点と、あと議員からありましたように、周りにはいろんなイベントがございますから、そういったところのタイアップですね。ですから、旅行会社で、専門的に言えば2種を取ったんですよ。2種というと、国内でしたらいろんな旅行商品をつくることできるんです。最近のヒット商品は、置賜三十三観音ですね。これはもう日帰りなんですけども、こういったこととか、あとは熊野大社の巫女体験、これはすごいそうです。若い女性かと思ったら、結構年配の方もいらっしゃるということで、こういったことなどを手始めとして、いろんな旅行会社とタイアップして、あと仙台の七夕の時期に、今度は例えばタイが定期便、この11月から復活するんですよ、週3回。タイの人たちが七夕に来たとき、うちにまた来てもらおうとか、そういったことなどを楽しめるような商品づくりに努力してまいりたいと思います。

○平 進介議長 3番、渡部正之議員。

○3番 渡部正之議員 ありがとうございました。実りある長井にしてみたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

散 会

○平 進介議長 本日は、これをもって散会いたします。

再開は、明日午前10時といたします。
ご協力ありがとうございました。

午後 4時20分 散会